

建築学生が学ぶ「構造力学」 用語集

本書の無断複写・複製・転載は固く禁じます。また第三者に対して譲渡・貸与等を行うことは、有償・無償に問わず固く禁じます。

(c) 2019 sometimes study All Rights Reserved.

もくじ

あ	P.3	ま	P.61
い	P.5	み	P.62
う	P.6	む	P.63
え	P.7	め	P.64
お	P.8	も	P.65
か	P.9	や	P.66
き	P.13	ゆ	P.67
く	P.16	よ	P.68
け	P.17	ら	P.69
こ	P.20	り	P.70
さ	P.24	る	P.71
し	P.26	れ	P.72
す	P.30	ろ	P.73
せ	P.33	わ	P.74
そ	P.36	ローマ字	P.77
た	P.37		
ち	P.40		
つ	P.42		
て	P.43		
と	P.45		
な	P.47		
に	P.48		
ぬ	P.49		
ね	P.50		
の	P.51		
は	P.52		
ひ	P.54		
ふ	P.56		
へ	P.58		
ほ	P.60		

あ行

用語	読み方	意味
アイランド工法	あいらんどこうほう	山留め工法の1つ。中央部の躯体を先に造ったあと、周囲の地盤を根切りし、残りの躯体を造る方法。中央部の切梁が不要になるため、作業が簡単になる。
アクティブ制震	あくていぶせいしん	地震で建物が揺れるとき、意図的に地震の揺れを抑える力を加え、建物の揺れを制御する方法。能動的（積極的）な制震なので「アクティブ制震」という。
アーチ構造	あーちこうぞう	建築、土木構造物に利用される構造形式の1つ。曲線を描く特徴的な形状。石造りの多い欧州で、盛んに用いられた。
圧延	あつえん	熱した鋼を回転するロールに通し、圧力を加えて所定の形状にすること。ほとんどの鋼材は「圧延」を行う。
圧延マーク	あつえんまーく	異形鉄筋の表面にある突起（イボ）。この突起の数で鉄筋の材質を判断する。
圧壊	あつかい	部材などが圧縮力で壊れること。「圧縮破壊」のことを略して「圧壊」という。
圧縮	あっしゅく	物を押しつぶすこと
圧縮応力	あっしゅくおうりょく	圧縮力（物をつぶす方向の力、引張力の反対）を加えた時、部材内部に生じる力（内力）。
圧縮強度	あっしゅくきょうど	圧縮荷重に対する1平米あたりの耐力。単位は「N/mm ² 、kN/m ² 」などで表記される。建築では「N/mm ² 」が一般的。
圧縮強度試験	あっしゅくきょうどしけん	材料の圧縮強度および圧縮時の力学性状を確認する試験。コンクリートの圧縮強度試験などがある。
圧縮鉄筋	あっしゅくてつきん	圧縮応力を負担する鉄筋。圧縮鉄筋を入れることで、コンクリートのクリープを軽減する効果がある。
圧接	あっせつ	圧力と熱を加えて鉄筋を接合（一体化）する方法。
圧密	あつみつ	時間をかけてゆっくりと圧縮すること。土特有の性質である。なお、圧密による沈下は「圧密沈下」。
圧密降伏応力	あつみつこうふくおうりょく	土に圧縮力を加えると、ある時点から圧縮量が大きくなる。この時の応力が圧密降伏応力。
圧密試験	あつみつしけん	粘性土の、圧密による沈下量・沈下速度・透水性を調べる試験。
圧密沈下	あつみつちんか	圧密現象による沈下。時間の経過と共に、土中の水分が抜けることで発生する。粘性土に起きやすく、不同沈下の原因にもなる。

用語	読み方	意味
圧力	あつりょく	単位面積当たりの力。単位は「Pa、N/m ² 」で表記される。
圧力球根	あつりょくきゅうこん	荷重により、地盤に応力が生じる範囲。大きさの等しい圧力を結んで得られる曲線で表されるが、見た目が球根のようなので「圧力球根」という。
あと施工アンカー	あとせこうあんかー	建築物の耐震改修で用いられるアンカー。既存鉄筋コンクリート造の躯体にあらかじめ孔を明け、「後（あと）から」専用のアンカーを埋め込む工法。金属系アンカー、接着系アンカーがある。
あばら筋	あばらきん	梁に配筋するせん断補強筋。梁に作用するせん断力に抵抗する。せん断耐力を高めるため用いる。
網入りガラス	あみいりがらす	0.4mm以上の金属製の網がガラス内部に挿入された板ガラス。マンションの窓に使われることも多い。※なお、ひし形に金属網を挿入したものは「ひし網入り板ガラス」、ガラス切断面に平行に金属網をいれたものは「角網入り板ガラス」という。
あらかじめの検討	あらかじめのけんとう	施工中の変更などを見越して行う設計・検討。
アルミ、アルミニウム	あるみ、あるみにうむ	金属材料の1つ。軽量かつ高強度だが、鋼に比べてヤング係数が低い。
合わせガラス	あわせがらす	2枚または複数枚のガラスを、中間の接着剤により一体化したガラス。破損時にガラスの破片が飛散しにくいので安全性が高い。
アンカーボルト	あんかーぼると	柱脚に用いる接合部材の1つ。鉄筋コンクリートの柱型または基礎と、ベースプレートとを一体化する。A B R 400、A B R 490、A B M 400、A B M 490などがある。
アングル	あんぐる	鋼材の種類の一つ。ローマ字の「L」形状をしている。正式名称は山形鋼という。鋼は色々な形状に成形できるため、アングル以外にも、チャンネルや鋼管などがある。
安全上等重要である建築物の部分	あんぜんじょうとうじゅうようであるけんちくぶつ のぶぶん	建築基準法施行令144条の3に規定される部分。安全上、防火上、又は衛生上重要である建築物の部分と定義される。
安全証明書	あんぜんしょうめいしょ	構造一級建築士以外の建築士が、建物の安全性を確かめたときに発行する証明書。建築士法20条2項に規定される。構造一級建築士が構造設計を行った際は、安全証明書は不要。
安全率	あんぜんりつ	設計などの不確実性を見越して、部材に余裕を持たせるための係数。
安息角	あんそくかく	土が崩れないで安定するときの、土の斜面の角度。似た用語の「内部摩擦角」は、砂質土の強さを角度で表した値。
アンダーピニング工法	あんだーぴにんぐこうほう	既存建物周りの地盤を掘削し、新たな基礎を新設あるいは、既存基礎の改築、補強を行う工法。
安定構造物	あんていこうぞうぶつ	外力に対してただちに崩壊せず、安定した構造物。力学的に成立した構造物といえる。